



## mediVR カグラを 1 年間使用して



センター長  
石原 茂樹

当センターでは、2025 年 9 月より VR リハビリテーション機器「mediVR カグラ」を導入し、外来・通所リハビリの利用者さんを中心に約 1 年間活用してきました。

今回は、その特徴や利用者さんの変化、今後の課題について振り返ってみます。

mediVR カグラは、椅子に座って VR ゴーグルを装着し、VR 空間に現れる目標物に向かって右手・左手を交互に伸ばすリーチング動作を行う機器です。座位で安全に取り組めることが特徴で、左右交互の動作を繰り返すことで、体幹の安定や重心移動、左右への荷重を促し、立位や歩行に必要な身体の使い方につなげることが期待されます。また、脳からの指令によって目標物へ手を伸ばす課題を繰り返すことで、麻痺のある方の随意的な運動を引き出すことも期待されています。VR を利用することで、周囲の環境に左右されにくく、目標物に意識を集中して動作することができます。さらに、目標物の大きさなどを調整できるため、利用者の能力に合わせた課題設定が可能です。課題の難易度を変えながら、注意力や運動の正確性を確認することもできます。

この 1 年間で約 80 名の方が利用し、多くのスタッフが基本的な操作を行えるようになりました。利用者さんの状態に応じて課題を設定し、動作を確認しながら次の課題につなげる、きめ細かな訓練を行っています。利用

者さんからは「体幹が安定した」「左右への荷重がしやすくなった」「歩行が安定した」「思った方向に手を出しやすくなった」といった声も聞かれています。特に印象に残っているのは、右片麻痺の機能改善を目標に通所リハビリを利用していた方です。mediVR カグラを継続して利用する中で、難しかったドアノブを回す動作や右手の操作が行いやすくなり、自分でできることが増えました。そして「これからも自分自身で努力することが大切だと分かった」と話され、通所リハビリを卒業することにつながりました。この経験から、機能面の変化だけでなく、「自分でできる」という実感が、主体的な生活へのきっかけになることを感じました。

生活期リハビリテーションにおいても、機能回復を期待する利用者さんの思いに応える手段の一つとして、mediVR カグラには可能性があると考えています。今後は、足腰の筋力やバランスが低下した方にも座位で安全に取り組める特徴を生かし、歩行や日常生活動作の改善につなげていきたいと思っています。

一方、現在は機器が 1 台のため、時間的な制約から 1 日 5～6 名程度の利用となっています。今後は多くの方に活用していただける運用方法や、スタッフの技術・評価方法を検討していく必要があります。これまでの経験を生かし、「もう一度できるようになりたい」という利用者さんの思いに寄り添いながら、新しいリハビリテーションの可能性を探っていきたいと考えています。

輝生会の  
基本理念

■「人間の尊厳」の保持 ■「地域リハビリテーション」の推進 ■「情報」の開示  
■「主体性・自己決定権」の尊重 ■「ノーマライゼーション」の実現

発行日/2026 年 10 月 15 日 ●発行 船橋市リハビリセンター ●発行責任者 センター長 石原 茂樹  
TEL (047) 468-2001 FAX (047) 468-2059 URL <https://www.funabashi-reha.com/>

## 介助する方の身体も大切に！

介助する方が心身ともに元気であることは、安心して在宅生活を続けるために重要なことです。今回は、介助する方・される方、どちらにとっても安心できる介助のポイントをご紹介します。

～方法と環境を工夫して、安心して続けられる介助を～

### ☆ 介助者の身体の使い方を工夫する

腕や腰だけの力に頼らず、足や体幹など身体全体の力を活用しましょう。

#### NG

- × 相手から離れて介助
- × 腰を曲げたまま介助
- × 身体をひねって力を入れる
- × 腕の力だけで持ち上げる



#### OK

- 相手に近づいて介助
- ベッドの高さを調整
- 足を広げて安定した姿勢
- 膝・股関節を使って動かす



**POINT** 無理のない姿勢で、腰や肩など身体への負担を減らせます。

### ☆ 動きを活かして、重心を動かす

「持ち上げる」のではなくご本人の身体の動きを活かすことで少ない力でも動きやすくなります。

例えば立ち上がりでは、

#### NG

- × 深く座ったまま
- × 足を投げ出したまま
- × 重心が後ろのまま
- × 腕を引っ張り上げる



#### OK

- 浅く座る
- 足を引いて足底をつける
- 前傾姿勢になる
- 重心移動をサポート



**POINT** できることはご本人に行ってもらい、必要なところだけ支えることで、無理なく動作を行えます。

### ☆ 介助を減らす生活の工夫

#### 食事



食べやすいよう  
工夫された食具を  
使用する

#### 着替え



大きめサイズ、  
大きいボタンなど  
着やすい服を選ぶ

#### 環境



安全に動ける  
環境を整える

#### 買い物



買い物は宅配などを  
活用する

#### 役割



ご本人の役割や  
できることを続ける

**POINT** 「手伝う」だけでなく、「どうすれば自分でできるか」を考えることも負担軽減につながります。

外来・通所・訪問リハビリを希望される方は、  
船橋市リハビリセンター（047-468-2001）まで ご相談ください。

## 訪問看護事業

## なぜ大切？ お口のケア

## 訪問看護だより



皆様、こんにちは。  
気候の変わり目ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今号では、ご自宅での健やかな療養生活に欠かせない「**お口のケア（口腔ケア）**」の重要性についてお伝えします。

## 毎日の口腔ケアで、健やかな毎日を！

口腔ケアは、お口だけでなく全身の健康と毎日の笑顔を守ります

①

## 誤嚥性肺炎を防ぐ

お口の細菌を減らして、肺炎予防！

細菌が唾液や食べ物と一緒に気管・肺へ入ることによる誤嚥性肺炎。口腔ケアで細菌数を減らすことが予防につながります。

②

## 食べる・話す力を維持

お口を清潔・潤った状態に！

舌や唇が動かしやすくなり、「嚥む・飲み込む・話す」力の維持につながります。

③

## 全身の健康を守る

お口の健康は、全身の健康にも関係！

歯周病菌などのお口の細菌は、全身の病気に関与することがあります。心臓病や糖尿病などの重症化予防にも大切です。

④

## 気分爽快＆笑顔アップ

お口の不快感を取り除いて、気持ちよく！

ネバつきや不快感が減ることで、食欲の増進や、日中の笑顔の増加につながります。

毎日の歯磨き・舌の清掃・保湿・定期的な歯科受診を習慣にしましょう

## お口の健康を守るために



## ① 毎日の歯磨き

お口の健康を守る基本  
自分で行えるケア



## ② プロのケア

歯科医院で定期的に専門的な  
クリーニング。歯磨きだけでは  
落とすきれない歯垢・歯石  
をケア



## ③ 訪問歯科

通院が難しい方へ歯科医師・歯  
科衛生士が自宅や施設を訪問、  
保険を利用して治療・口腔ケア

「通院が難しいから」とあきらめず、まずはお気軽に歯科医師・歯科衛生士へご相談ください。



## ●ご自宅でのお口のケア、お気軽にご相談ください

こんなお悩みはありませんか？



うがい  
うまできない



歯磨きを嫌がる



訪問歯科を  
利用してみたい

私たちが

一緒に考えます

ご本人の状態を大切に

体調

生活の様子

できること

安全に  
無理なく

続けられるケア方法をご提案

相談していいのかな？

？

そんなお悩みも

**大丈夫です**

小さなことでも  
お気軽にご相談ください

## 【次号予告】

次号では、おすすめの口腔ケア用品や具体的なケアの仕方について分かりやすく  
レクチャーしますので、ぜひお楽しみに！

訪問看護を必要とされる場合、訪問看護ステーション：所長 亀山 笑美 または ソーシャルワーカーまで  
お気軽にお電話（047-773-0319）ください。

# 地域リハビリ 拠点事業

## ～活動報告～

「地域リハビリテーション拠点事業」では、関係機関と協力し様々な活動を行っています。

第 24 回摂食栄養サポート勉強会

2026 年 9 月 29 日 (火)

WEB 開催

参加者 81 名

### テーマ

「**外食支援のための基礎知識を学ぼう**  
～嚥下コード、嚥下機能評価と咀嚼への理解を深めて～」



講師：田代 晴基 氏  
(船橋市かざぐるま休日急患・特殊歯科診療所)

今回の勉強会は 2 部構成とし、はじめに、船橋市かざぐるま休日急患・特殊歯科診療所の田代晴基先生 (歯科医師) より、「食べる機能の支援～咀嚼と食形態～」をテーマにご講演いただきました。

田代先生からは、咀嚼する力

#### 咀嚼力とは

咬合支持 (噛み合わせ)

×

口の力強さ、巧みな動き (筋力、運動)

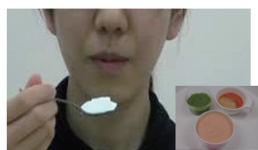
×

認知機能

は単に「歯がある」「噛む力が強い」だけで決まるものではなく、「咬合支持 (噛み合わせ)」「口の力強さや巧みな動き」「認知機能」の 3

つが組み合わさって成り立つことが紹介されました。

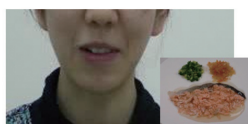
### 食べ物によって顎の動きは違う



ペースト食



ソフト食



軟菜食



常食 (普通食)

食べ物によって顎や口、舌の動きも異なるため、その方の食べる機能を適切に評価し、機能に合った食形態を選択することが大切です。



また、実際の食事場面を多職種で観察する「ミールラウンド」についても解説いただきました。

### ミールラウンドとは??

医師、歯科医師、歯科衛生士、看護師、管理栄養士、言語聴覚士などの専門職が、実際の食事場面を見て回り、食べる様子を確認する取り組みです。

「meal (食事)」と「round (巡回)」を組み合わせた言葉で、日本語では「食事観察」や「食事ラウンド」と呼ばれることもあります。

#### 口腔および咽頭の評価

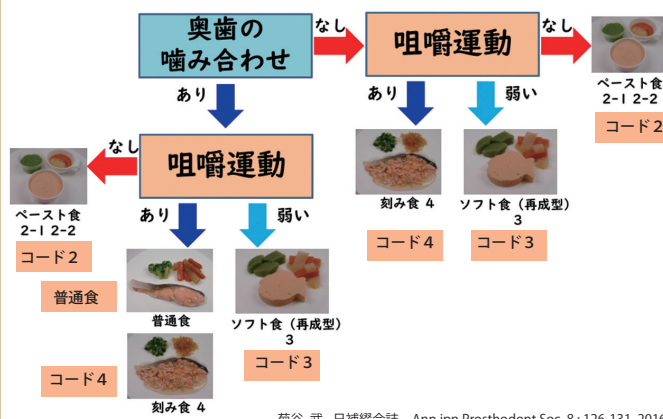
#### 十 食べ方・食べる環境の評価

#### 食事の場面を多職種で観察しましょう!

医師、歯科医師、歯科衛生士、看護師、管理栄養士、言語聴覚士などが、口や喉の機能だけでなく、食べ方や食事環境、姿勢、介助方法、本人の機能と食形態が合っているかなどを確認します。

咀嚼機能から判断する食形態決定のフローチャートの紹介がありました。

### 咀嚼機能から判断する 食形態決定のフローチャート



さらに、一見問題なく食べているように見えても、嚥下機能に問題が隠れている場合があります。講演では実際の症例や映像を通して、食事場面を丁寧に観察し、変化を早期に捉えることの重要性を学びました。

勉強会の動画です。ご覧ください



食べる機能の支援  
咀嚼と食形態



外食を希望する嚥下  
困難な皆様へ



特別養護老人ホームローゼンヴィラ藤原 管理栄養士 加藤 寿美氏

## 「外食のすすめ～外食を希望する嚥下困難な皆様へ」

続いて、ローゼンヴィラ藤原の加藤寿美さん（管理栄養士）より、「外食のすすめ～外食を希望する嚥下困難な皆様へ」をテーマにご講演いただきました。（要約です）

### 1. 外食を希望する高齢者への支援

講演では、嚥下機能に配慮が必要な高齢者にも、外食を楽しんでいただくための工夫や支援について紹介されました。今年3月、特別養護老人ホームの入居者4名が回転寿司店を訪れた。4名はいずれも嚥下調整食分類コード4に該当する食事を食べていましたが、施設で提供される食事は食べやすく調理されているため、外食先でも安全に食べられるかが課題となりました。

### 2. 回転寿司店での具体的な工夫

外食時には、食材の特徴に応じた調整が重要。

- ・ 食材の大きさ：大きなネタは一口大にカットする。
- ・ 噛み切りにくい食材：イカ、タコ、貝類、白身魚などは、食べる方の状態に応じて小さく切る。
- ・ 海苔への配慮：海苔巻きや軍艦巻きは、海苔を取り除くなどの工夫をする。
- ・ 水分への配慮：味噌汁などの液体でむせる場合は、とろみの使用を検討する。 など。

鮭や中トロは、脂肪分が多く、口の中でまとまりやすい食材として紹介されました。また、卵焼きも柔らかく、比較的食べやすい食品とのことでした。

### 3. 嚥下調整食分類と口腔機能の理解

食事形態を選ぶ際には、嚥下機能だけでなく、咀嚼や口腔機能の状態を把握することが大切。講演では、菊谷武氏が作成した食形態決定のフローチャートを参考に、コード2からコード4までの食事形態の選定について説明されました。同じコード4でも、奥歯で十分に咀嚼できる人と、奥歯がなくても食べられる人がおり、口腔機能には個人差があるとのこと。口の各部位の役割として、【前歯：食材をつかみ、かじり取る】、【奥歯：食材をすりつぶす】、【舌：食材をまとめ、上あごに押し付けてつぶし、食塊を形成する】があり、舌の動きが保たれていれば、噛む力が弱い人でも、食べやすい大きさや硬さに調整することで、食べられる料理の幅を広げられる可能性があると話されていました。

### 4. 嚥下調整食を提供する飲食店の紹介

嚥下調整食を提供する飲食店はまだ少ないですが、食べる楽しみを支える取り組みが始まっているとし、(1) 嚥下食専門店「叶和」、(2) 和食レストラン「とんでん」

(3) 東京ディズニーランド・東京ディズニーシーなど、また、(4) 一般の飲食店を利用する工夫として、豆腐や湯葉を使った柔らかい和食、ムースやピューレ、ソースを活用したフランス料理、食べやすいメニューが豊富な飲食店等の紹介がありました。

### 5. 嚥下調整食を家庭で作る工夫

講演後半では、家庭でも取り組みやすい嚥下調整食の調理方法として、豆腐ハンバーグと付け合わせの野菜、お粥ゼリーの作り方が実演されました。

### 6. 嚥下調整食の普及に向けた課題

嚥下調整食の調理には、食材の選定や加工、調理の手間、廃棄の増加など、飲食店側にとって大きな負担があり、そのため、対応できる店舗はまだ限られています。一方で、利用者の「外食を楽しみたい」という思いに応えるため、工夫を重ねて食事を提供する店舗も少しずつ増えています。

**7. まとめ：**食べたいという思いを、外食の機会につなげる。講演を通して強調されたのは、嚥下機能に配慮が必要な方であっても、適切な工夫や支援によって外食を楽しめる可能性があるということでした。

そのためには、本人が普段どのような食事を食べているのか、何を食べたいと望んでいるのかを把握し、飲食店に事前に相談することが重要。食事の安全性を確保しながら、本人の希望や楽しみを尊重する姿勢が求められる。とまとめられていました。

今回の勉強会のアンケートでは、**勉強会全体の満足度は5段階評価で平均4.6**。「5」が31名、「4」が16名でした。参加者からは、「動画や具体的な症例があり理解が深まった」「ミールラウンドの目的や観察ポイントが学びになった」「外食時の注意点や具体的なお店の紹介が参考になった」といった声が寄せられました。

また、「嚥下食を実際に作るところを初めて見ることができた」「実際の支援現場や調理方法など、現場目線の具体的な内容を知ることができた」など、実践につながる内容も高く評価されました。

食事は、栄養を摂るだけではなく、その人らしい楽しみにつながる大切な営みです。今回の勉強会を通して、「安全に食べられるか」を評価するだけでなく、その先にある「何を食べたいのか」「誰と、どこで食べたいのか」を支えることの大切さを改めて学びました。

これからも多職種で学び合い、それぞれの専門性を生かしながら、地域で暮らす方々の「食べられる」のその先にある「食べたい・楽しみたい」を支える取り組みを進めていきます。

地域リハビリ拠点事業のホームページは船橋市リハビリセンター HP 内にあります。

このQRコードで直接アクセスできます。

活動状況の閲覧、勉強会の申込書などが格納されていますので、ブックマーク登録してご活用ください。

地域リハビリ拠点事業  
ホームページQR



## リハビリ事業 (介護予防)

介護予防を図る目的で

市内に住む 65 歳以上の身体機能の低下がみられる方を対象に、実施している事業が「リハビリ事業」です。



### 筋力トレーニングの基礎知識 (その2)

パワーリハビリは軽い負荷で、ゆっくりとした動作で行う筋力トレーニングです。  
今回は筋肉の収縮形態と、トレーニング法について説明します。

#### 筋肉の収縮形態：2つの動き

##### ① コンセントリック (短縮性筋収縮)

筋肉が縮まりながら  
力を発揮する

例：膝を伸ばす



##### ② エキセントリック (伸張性筋収縮)

筋肉が伸びながら  
力を発揮する

例：膝をゆっくり曲げる



どちらの動きも、速く動かさず、負荷をコントロールすることが重要

#### パワーリハビリの基本リズム

1・2・3・4 力を入れる

速く動かすと、慣性の影響で負荷が変動しやすくなり、  
筋肉への刺激が不十分になることがあります。

5・6・7・8 動作を戻す

ゆっくり動かすことで、どの関節角度でも  
負荷をかけやすくなります。



#### 高齢者に適したトレーニング法

高齢者に必要な体力とは？

立ち上がりを  
スムーズに

歩行を  
スムーズに

転倒・転落を防ぐ

アクセル  
＝力を入れる動作  
(コンセントリック)

安全な運転  
のように

ブレーキ  
＝戻す動作  
(エキセントリック)

急発進せず、戻るときもブレーキを効かせるように、ゆっくり動かす

#### <リハビリ事業利用のご案内>

パワーリハビリ教室：年に4回、3カ月おきに船橋市の広報にて公募(2/15・5/15・8/15・11/15の号にて掲載)

プールリハビリ：随時受付けています。

リハビリ事業専用回線：047-400-6227(平日9:00～12:00、13:00～17:00)

## 委員会より

## サービス向上委員会



### 「接遇と私」 私たちの取り組み

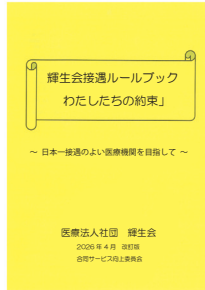
輝生会では「よりよい接遇をめざして」を、合い言葉にして、接遇ルールブック『私たちの約束』をもとに日々の業務に取り組んでいます。

当センターでは、  
2026年度 接遇目標として、

「挨拶の 言葉とともに  
笑顔リレー」

をあげています。

12月には、優れた実践を日頃から心掛けているスタッフを、接遇に優れたスタッフとして表彰しています。



今回は、理学療法士の渡部貴幸さんが接遇で心掛けている「目線の高さを合わせること」と「節度ある丁寧な言葉遣い」を紹介します。

私が接遇で大切にしていることは、「目線の高さを合わせること」です。会話の際は腰を落とし、利用者さんと同じ目線、または少し低い位置でお話するようにしています。また、親しさがあっても慣れ合いにならず、輝生会職員として節度と敬意を忘れず、「節度ある丁寧な言葉遣い」で接することを心掛けています。これからも笑顔で安心して利用していただける接遇に努めていきます。

## 地域リハ推進委員会

## ケアマネジャー交流会

2026年7月16日(木)

場所：船橋市リハビリセンター

第16回のケアマネジャー交流会を行いました。従来は仕事終わりの夕方に開催していましたが、今回は趣向を変え、日中の時間帯で、前後半の2部構成としました。



【11:15～12:00の間のリハビリ体験】と【12:00～13:00のランチョンをしながらの基礎知識のミニレクチャーと意見交換会】を企画しました。

参加者はケアマネジャー11名と当センタースタッフ10名の総勢21名でした。

前半のリハビリ体験では、センター内で使用しているリハビリ機器の説明や体験を行いました。アンケートの結果からVR機器(カグラ)への関心が高く、新たなリハビリ内容への理解が深められたようです。



VR機器を用いた体性認知協調療法を体験しているところ

体性認知協調療法では、頭部にヘッドマウントディスプレイを装着し、両手にコントローラーを保持した状態で、「座位」で「左右交互」に手を伸ばす(リーチ動作)を行います。

### ミニレクチャー

通所リハにおける  
リハビリテーション会議のあり方

2026年7月16日  
ケアマネ交流会 ミニレクチャー  
外来通所PM 小嶋 佐知子

### リハビリテーション会議とは

- 利用者の「活動」と「参加」を促進し、自立支援を多職種チームで実現するために、リハビリの目標や進捗状況、生活課題の解決策を話し合う多職種連携の会議です。
- 単なるリハビリの報告だけに留まらず、居宅サービス計画(ケアプラン)全体の最適化を図れるよう、利用者本人や家族、医師、リハビリ専門職、ケアマネジャーなどが一堂に会して行う**作戦会議**です。

### ケアマネジャーの皆さんに期待すること

- 生活全体を見渡す視点**  
リハビリの目標が、本人の「実際の暮らし」や「生きがい」に直結しているか、作成されたケアプラン全体とのズレが無いかを客観的にチェックし、助言をいただきたいです。
- 潜在的なニーズの代弁**  
本人や家族が、医師や療法士には直接言いにくい「本音」や「不安」を、日頃から一番身近で信頼関係を築いているケアマネジャーの皆さんから伝えていただくことが重要と考えています。

### 参加いただく3つのメリット

- 1. 専門的な評価の獲得**  
療法士から具体的な身体状況、介助の工夫や注意点を聞き、ケアプラン作成の根拠を強化できます。
- 2. 医師への直接相談**  
病状などに関する本人、家族の不安をその場で相談し、医学的な見地を得た上で支援方針を決定できます。
- 3. 担当者会議との合同開催の場**  
必要な参加者を追加し、サービス担当者会議と合同での開催とし、日程調整の手間や移動時間を削減し、業務効率化に繋がります。

後半のランチョン交流会では、「通所リハにおけるリハビリテーション会議のあり方について」のミニレクチャーが、当センターの小嶋佐知子(外来・通所マネジャー)からあり、その後、お昼を食べながらの交流があったためか、気軽に話しやすい雰囲気があったとの意見が多かったです。

今後も地域での交流を深めつつ、地域一体となって様々な支援を行えるように努めてまいります。

委員会より

## 地域の施設紹介

### 管理者 紹介



飯嶋 和斗 氏



さざんか特殊歯科診療所の院長を勤めさせていただいております飯嶋和斗と申します。

何かしらの理由で歯科受診から遠のいてしまった方に対して、少しでも通いやすい医院となるよう、スタッフと共に日々診療に当たらせて頂いております。

お気軽にお問い合わせ下さい。

## 船橋市さざんか特殊歯科診療所

〒274-0812 千葉県船橋市三咲 7-24-1  
北部福祉会館内 TEL:047-449-7557



船橋市では、一般の歯科診療所での受診が困難な市内在住の心身障がい児(者)や在宅要介護高齢者を対象に、「船橋市さざんか特殊歯科診療所」および前号で紹介した「船橋市かざぐるま休日急患・特殊歯科診療所」を船橋歯科医師会へ事業を委託し、専門的な歯科診療を行っています。

診療は東京歯科大学(歯科麻酔学・小児歯科学講座)から派遣される管理指導医と連携して安心の医療体制を整備しています。在宅要介護者へは、基礎疾患などに合わせて必要に応じて、主治医との情報共有をもとに適切な治療方針を決定します。通院が困難な方に対しては、訪問診療も可能です。

さらに「さざんか特殊歯科診療所」では、誤嚥性肺炎だけでなく、窒息や低栄養を防ぐための「摂食嚥下障害」への支援にも力を注いでいます。内視鏡検査や口・のどの機能検査、食事調査を実施し、動きを改善するリハビリ訓練、姿勢や調理形態・栄養のアドバイス、飲み込みを助ける入れ歯作製などを、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の多職種チーム医療で提供しています。



診療室

## 利用者さんの声から

ラグビー精神で、気持ちを奮い立たせています

佐藤 保憲 さん

私が通所リハビリを始めたのは令和4年3月3日からです。それまで脊柱管狭窄症の診断で手術や前立腺疾患の治療を受けてきていましたが、日常生活は自立していました。しかし年々屋内の移動もやっとな状態となっていた中、この年の正月に立て続けに転んだことから歩くことが不都合になり、転ばないようにリハビリをしなければと思ったことが契機でした。開始時の目標は「転倒せずに過ごすことができる」とし、歩行能力の改善、下肢筋力増強、バランスの改善訓練を行うものでした。

あれから4年半が経過し、現在の希望は「杖で普通に歩けるようになりたい」です。そのために週2回のリハビリを続けています。今でも転倒して足首の捻挫をす

ることもありますが、目標に向かって一歩でも近づけるように頑張っています。付け加えれば、若い頃に虜になったラグビー精神で、気持ちを奮い立たせています。センターには、喜んで行くことができ、リハビリを楽しく行える場所であることを期待しています。また家庭では妻にいつも励まされています。口うるさいと思うこともありますが、とても感謝しています。センターへの希望としては、皆さんに今まで以上に笑顔でそして優しく接してほしいということです。

これからもよろしくお願いいたします。



### 船橋市リハビリセンター 案内図



【編集後記】写真は前原東飯山満町線のみどり飯山満橋です。巻頭言では mediVR への取り組みを紹介、クリニック事業では安心して続けられる介助法等の紹介、訪問看護事業ではお口のケアについて、地域リハ拠点事業では摂食栄養サポート勉強会の内容をまとめました。リハビリ事業では筋肉の収縮形態とトレーニング方法を解説。委員会活動では、新しい試みとして昼の時間に行なったケアマネ交流会について紹介しました。地域の施設紹介では受診が困難な市内在住の心身障がい児(者)や在宅要介護高齢者を対象にしている「船橋市さざんか特殊歯科診療所」を紹介。利用者さんの声からは佐藤さんをお願いしました。(石原茂樹)

船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町 2-519-3 TEL (047) 468-2001 FAX (047) 468-2059